

# 原子力災害医療体制における当院の役割と課題 ——原子力災害医療・総合支援センターとしての取り組み——

## A role and problem of our hospital in the nuclear disaster medical care system: Efforts as a nuclear disaster medical care/general support center

飯干 亮太

Ryota IIBOSHI

国立大学法人広島大学 広島大学病院看護部 看護師長

Chief Nurse, Nursing Department, Hiroshima University Hospital

1990年の東海村ウラン加工工場臨界事故を受け、わが国の緊急被ばく医療体制の整備が始まり、広島大学は、西日本ブロックの三次被ばく医療機関として、東日本ブロックの放射線医学総合研究所と連携を図りながら、初期および二次被ばく医療機関との緊急被ばく医療体制の整備を行った。その後、東日本大震災での東京電力福島第一原子力発電所事故における医療対応の反省を踏まえ、緊急被ばく医療体制から、新たに原子力災害医療体制が整備されることになり、広島大学は、高度被ばく医療支援センターおよび原子力災害医療・総合支援センターに指定された。原子力災害医療・総合支援センターの主な機能は、原子力施設立地道府県にある原子力災害拠点病院（以下拠点病院）の支援と、原子力災害医療派遣チームの専門研修指導および発災時の派遣調整である。原子力災害医療・総合支援センターは、広島大学以外に長崎大学、福島県立医科大学、弘前大学が指定されており、それぞれ支援する拠点病院がある道府県の担当エリアが決まっている。

派遣チームを対象とした専門研修は、原子力災害時における傷病者対応に必要な、放射線防護や被ばく医療に関する知識と技術の習得を目的に、医師・看護師・放射線技師が講義や実習指導を行っている。この専門研修で指導する看護師は、ICUや高度救命救急センターに所属し、緊急被ばく医療の教育を受けたものが研修指導講師として派遣されている。

一方、専門研修で指導する看護師は、病院内での異動によって、クリティカル部門から他部署へ異動すると、研修指導講師として派遣される機会が減少するため、習得した専門知識や技術の衰えが懸念されている。さらに、原子力災害の発災はまれであるため、原子力災害で医療活動を行う機会がないことも重なり、専門研修で指導する看護師の専門知識や技能を維持していく事が困難な状況にある。専門研修指導者の人材確保は、担当エリアの専門研修を継続させるうえでも必須であり、指導者が習得した知識や技能を維持することは不可欠である。専門研修で指導する看護師は、原子力災害医療の技能維持のための研修会へ参加したり、院内において原子力災害に関する研修会やシミュレーションの講師を担当し一般病棟看護師へ指導をする事で、専門知識と技能の維持に努める必要がある。しかし、現状として、これらの取り組みを行う環境はできていないため、今後、専門研修で指導する看護師が、原子力災害医療に継続して取り組める環境を病院全体として構築するために啓発活動を行っていく必要がある。

doi: 10.24680/msj.6.1\_72